令和7年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価（年間）　（評価規準　A:十分に実践されている　B:ある程度実践されている　C:不十分である　D:分からない）

建学の精神　女性の自律・自主と先度他の心の涵養

教育目標　白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。

本年度の重点目標　①積極的な情報発信　②危機管理意識の高揚　③順心の良さを小中学校にアピール　④生きる力の育成　⑤社会生活に適応する力の育成　⑥自己管理の育成　⑦第一志望校を目指させる指導

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①積極的な情報発信	ＳＮＳの活用	(1) 具体的方策 インスタグラムでの情報発信を中心に、積極的な情報発信に努める。 (2) 具体的指標 インスタグラムの投稿数が年間１００回以上となることを目標にする。 １００回以上　… A ７５回以上　… B ７５回未満　… C	C	・インスタグラムの投稿は１月末の時点で５６投稿、３月末までに２０投稿して７５投稿以上にする。イベントは投稿、日常の学校生活はストーリーに挙げられるようにしたい。 ・クックデザインは頻繁に投稿してくれているので、スタイルごとの偏りをできるだけ解消していく。課内の情報交換を密にして作業のできる者を増やしていきたい。	C	・最近の状況を考えれば、SNS等の発信は大変重要と思いますが、個人情報との関係もあり難しいのも事実です。担当者の必要感や熱量に左右されると思いますが……。 ・数にとらわれてしまうと苦しくなりませんか？相手あってのことです。 ・情報発信がやや乏しく感じられるようですので、日々の生活をなるべく速やかに発信できることを望みます。 ・イベントは毎年決まっていますし、アップする方はマンネリを感じるかもしれませんが、生徒も、見る方も変わっていくので、とにかく投稿数は増やした方が良いと思います。 ・美デやクックの投稿が多く、専門的な勉強ができることがよく見えてきます。 ・スタイルに偏りがないように投稿した方が学校のことがよくわかります。 ・生徒主体のインスタグラムを増やした方が親しみがわくと思います。 ・目的を明確にすることもありますが、学園のかかげる清楚・芳香・忍耐にあわせた投稿もあると関連性があり、より学校を理解いただけるのではないでしょうか。
②危機管理意識の高揚	体験型防災訓練・不審者対策防犯訓練の実施	(1) 具体的方策 体験型防災訓練及び不審者対策防犯訓練を実施し、生徒及び職員の危機管理意識を高める。 (2) 具体的指標 防災訓練及び防犯訓練後にアンケートを実施し、「役に立った」と感じる生徒・職員が８０％以上を目標にする。 ８０％以上　… A ７０％以上　… B ７０％未満　… C	A	・前期は地震を想定し、授業担当教員(水曜6限)の誘導による避難訓練を、後期は学級活動中の火災を想定した避難訓練を計画し、消防職員による水消火器と室内煙体験を実施した。 訓練後、生徒に防災訓練を通じての危機管理意識の変化を問うアンケートを行った結果、非常に高まった42.1%、やや高まった54.1%、あまり高まらなかった2.1%、全く高まらなかった1.7%という結果だった。 ・不審者対策訓練は生徒を対象としたものだけになってしまったので、来年度は職員対象の実際的な訓練を計画したい。	A	・消防または警察の方による指導しながらの訓練は、緊張感や切迫感があり、危機的意識が高まり良いと思います。（自転車、電車通学にも警察の方の指導があれば良いと思います。） ・天災は年々被害が大きくなっている印象です。立地条件は悪くないと思いますので、登下校時の行動を生徒と保護者に周知できれば良いと思います。 ・室内煙体験は危機管理意識が高まったと思います。 ・不審者対策は女子高なので、特に力を入れていただきたい。 ・応急処置の知識なども学べると良いと思います。
③順心の良さを小中学校にアピール	学校訪問の数，学校説明会等への参加者数	(1) 具体的方策 ア 学校訪問の数を昨年より増やす。 イ 魅力ある説明会を開き，参加者を増やす。 (2) 具体的指標 ア 学校訪問を年5回実施　… A 学校訪問を4回実施　… B 学校訪問を3回実施　… C イ 学校説明会参加者が昨年より増えた　… A 学校説明会の参加者が昨年と同じ　… B 学校説明会の参加者が昨年を下回った　… C ※ 参加者 ＝ 保護者＋生徒	A	・本年度の学校訪問回数は年５会実施できた。 ・本年度の体験見学会や学校説明会への参加者は、昨年（430人）より59人増えて、489人だった。 ・精力的に学校訪問を行い学校案内やチラシを各中学校に届けたことにより、生徒+保護者の参加人数が大きく増えた。 ・チラシの内容や色を変化させたことにより、中学生へのインパクトはあったと考える。 ※体験見学会やオープンスクールの回数を増やしたり実習体験を情報ビジネス、総進・特進で行うなど新しい試みをした。順心へ来校する中学生や保護者の数を増やすことができたが、受験校として選ばれることには繋がらなかった。 ※学校の雰囲気や教育内容に魅力を感じさせないと受験生は増えない。部活動に依存した募集でいいのかを考えたい。受験校として選んでもらえる要素を洗い出したい。 ※渉外課の活動評価は受験生の数であると考える。従って、このような学校評価には渉外課はそぐわないと考えるため、来年度は外してもらいたい。	A	・学校側からの広報は十分なされていると思います。後は生徒や親の「口コミ」や評判になると思います。順心に興味のある人は、親とか近所の人に感触を求めるような気がします。 ・短期間ではなかなか成果は現れなくても、徐々に小・中学生に浸透していくのではないでしょうか。無償化がどの程度良い影響を及ぼしているか興味があります。潜在希望者は確実に多くなっていると思います。どうアピールするか、何か方法があるはずです。 ・体験見学会や説明会への参加者が増加しているのはとても良いです。私立高校には整った美しい設備を求めると思うので、その辺りも力を入れて欲しい。 ・学校説明会の回数より、出向いて授業をさせていただくと、先生の有りよう（解り易い教え方、優しい、丁寧とか）が判ってよいのでは。足を運んでいただくのには限界があるように思います。 ・今、中学の部活動が地域部活に移行しているところもあり、クラブチームに入る子が増えている。しかし、クラブチームに入るまではできないけれど頑張りたいという子もいるので、中学入学につながったり、高校のスクールの活用をアピールできると集まりやすいのかな……。クラブチーム化は難しいとは思いますが、思いきりできる環境をつくってあげて欲しい。 ・部活動以外の目的でも受験してもらえる生徒が増えたら良いと思います。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
④生きる力の育成	ＩＣＴを活用した教育環境の整備	(1) 具体的方策 生徒が授業を通してタブレットを活用した教育活動に取り組める環境を整備する。 (2) 具体的指標 生徒が授業中にスマートフォンやタブレットを使用する場面を担当する全授業に対して半分以上の頻度で設けることができた教員が ５割以上　… A ２割以上　… B ２割未満　… C	A	・生徒が授業中にスマートフォンやタブレットを使用する場面をどれくらいの頻度で設けましたか。 ほとんど毎回21.2%　　半分以上30.3% ほとんどなし48.5% 半分以上の頻度で設けることができた職員が51.5%と５割以上なので評価をＡとした。 ・来年度以降は高校で２学年が１人１台タブレットになり、よりWi-Fi環境や機器の不具合など、環境面の改善が必要。 ・半分以上の教員が生徒にタブレットを使わせる場面を設けることができているのでそれをできるだけ多くの教員と共有していきたい。	A	・科目によりスマートフォンやタブレット使用の良し悪しがあると思いますので、使えるところは大いに活用していただきたい。授業への意識向上に期待が持てます。 ・一人一台持たせたら、活用しなければもったいないと思います。（「ほとどなし」が48.5%） ・情報収集や先生方のスキルアップが大変だと思いますがポイントだと思います。 ・Wi-Fiの速度が遅くならないようにする必要があると思います。 ・パソコン、携帯など便利なものがある一方で、最近は人が書いた字で温かみを感じるといわれています。手書きも大切にしてください。
	キャリア教育の充実	(1) 具体的方策 総合的な探究の時間で使用する探究プログラム（Inspire High）を活用し、生徒が自分の考えを論理的に整理し、他者に伝える力を養うことで、進路実現につなげる。 (2) 具体的指標 探究プログラム（Inspire High）が進学・就職試験のための準備に役立つ（高校３年生は実際に役立った）と思う生徒が ７割以上　… A ５割以上　… B ５割未満　… C	A	・探究プログラム（Inspire High）が進学・就職試験のための準備に役立つ（高校３年生は実際に役立った）と思いますか。 （年間）　思う34.7%　　まあまあ思う50.2% あまり思わない13.1%　　思わない2.0% 思うとまあまあ思うの２項目を足した84.9%が役に立ったと思うを選択したので評価をＡとした。 ・来年度からは総合的な探究の時間にInspire Highを使用するのは新高３年だけになり、新高１・高２はトリナスと協同して行うことになった。しっかりと生徒の様子を観察し、総合的な探究の時間が生徒にとってのキャリア教育に繋がるようにしていきたい。	A	・探究プログラムが進学や就職に役立ったと感じている生徒が多く良いと思いました。 ・直接的に役立った！と実感するのは難しくても、視野を広げることやいろいろな価値観を知ることができると思います。 ・今年は84.9%のできで、来年はトリナスと協同とのこと。一層の向上を期待します。 ・探究プログラム系は新しいものが次々出てくると思いますので、情報を集めて良いものを活用してください。 ・実務経験者とのコミュニケーションを軸に進路選択に結びつけていくことが望ましいと感じます。
⑤社会生活に適応する力の育成	「清楚・芳香・忍耐」の理解と実践	(1) 具体的方策 白梅精神に基ずく教育目標「清楚・芳香・忍耐」の意味を理解させ、生徒一人ひとりが意欲的にとり組むことができるようにＨＲや「Fujieda　junshin　check」で振り返らせ、課題解決に導く。 (2) 具体的指標 学期終了時に「Fujieda　junshin　chek」で自己評価させる。 「よくできた」「おおよそできた」と自己評価する生徒が ７割以上　… A ５割以上７割未満　… B ５割未満　… C	B	・Fujieda junshin checkの自己評価だけで終わらない工夫が必要である。生徒自身の自己評価が高く、自己を客観的に見つめることが今後の課題だと考える。現在は「yes」「no」で答えているが、より度合いが理解できるように、点数制にしてみるなどの工夫をしたい。 ・「no」が多い項目は、 １　遅刻や忘れ物がなく課題提出期限が守れた ２　講話に集中して取り組むことができた。移動時は黙想することができた。 17 テレビ・パソコン・ゲーム・携帯電話などの使用は２時間までと決めている。あるいは決めてはいないが、だいたい２時間以内である。 この項目は、一番多く、ネットにどのように向き合い、対応すべきかしっかりとを考えさせたい。	B	・いつもすばらしい、すてきだなと感じています。不易と流行がありますが、まさしく不易のところだと思います。先生、生徒共に自信を持っているように感じます。 ・本校としての特徴でもあり、揺るぎのないものとして身に付けていって欲しいと思います。 ・忘れ物がないことは、勉強に対する意欲が向上してきたと思います。 ・課題の提出期限については、進学、就職でも基本的に守らなければいけないことなので、徹底すべきだと思います。 ・テレビ、パソコン等使用は２時間までとのことですが、父兄の方にも家庭内での教育をお願いしたい。 ・３年間で実践までは難しいかもしれませんが、素敵な女性像、学校が目指す人物をイメージとして理解できるように、繰り返しの指導が大切だと思いました。また、時代により変わっていく規則はあろと思いますが、規則は守るもの、変えるにはそれなりの順序があることを教えていて欲しいです。
	礼法を身につけた、あらゆる場面での実践	(1) 具体的方策 講話・礼法・学校の規則・社会的ルールについて理解させ、基本的生活習慣や自ら考える力を身につけさせる。 (2) 具体的指標 講話・礼法・校内外のルールについて理解し、講話の聴き方や態度、また移動時の行動、社会的ルールが身についており、教室を学びの場所として整理整頓を心がけている。 ８割以上できている　… A ６割以上８割未満　… B ６割未満　… C	B	・講話の聴き方や態度については概ねできているが、社会的ルール、学校のきまりが身についているとは言えない。講話・授業、どの場面においても浸透していってほしい。そのためには自ら考える場面の設定や教師の指導が必要である。どの段階で個人指導を行うのか、学年ごとや教師の個人差があってはならない。全体の教師団の共通理解が重要である。 ・校風検査、マナーアップキャンペーン、会食など、さまざまな場面で指導を重ねたい。	B	・礼法は大事な学びの一つであり、すぐ身につくわけではありませんので、先生方全員が共通認識を持って指導をして欲しい。目立つ生徒がいればその場で注意。 ・３年間順心での礼法で身につけたことは、就職試験の時やこれから社会に出る時、すでに身についていることは大きいと思います。 ・自転車通学生徒のヘルメット着用率が低いと感じます。学校からの指導はありますか？各家庭での判断になりますか？どうでしょうか。 ・周りの持つイメージアップのために、月１回商店近隣の清掃活動をするなど。生徒達も外の目がある意識が出て、良い方向に向くのではと思います。時間はかかると思いますが。

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を 評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
⑥自己管理の育成	健康相談の充実と情報共有	(1) 具体的方策 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。担任等と情報共有、必要に応じスクールカウンセラーとの連絡を密に行い、生徒の学校生活がよりよいものとなるようにする。 (2) 具体的指標 学期終了時に生徒課の反省表「教育相談項目」にて、教員（スクールカウンセラー含）に相談できる生徒が ４０％以上　… A １０％以上４０％未満　… B １０％未満　… C	B	・全体としてB評価ではあるが、着実に相談できる環境は整いつつある。特に中学部では40%を超えており、達成できたことは大きな成果である。今後は学年間の差を縮めることを意識しながら、生徒一人ひとりが「困ったときに誰かに話せる」と感じられる学校づくりを、丁寧に継続していくことが大切である。 ・生徒の安心感を土台にした支援体制の充実を図っていきたい。カウンセリングの件数も増加傾向にあり、今後もカウンセラーと情報を密に行っていき、生徒対応に活かしていきたい。	B	・生徒が学校生活を安心、快適に過ごすための環境作りは大変だと思いますが、充実させていってください。どうしても個々の対応になるので、時間はかかりますが根気強くお願いします。 ・何かと難しい年齢なので、友達同士でも本音で話す子がいれば良いけれど、なかなか大変な子については先生方が細かな変化に気付けるようにしてください。 ・各家庭とも連携を取り合い、お互いに注意喚起していただきたい。 ・心身の不調の出る生徒は一定数でてくるので、今後も寄り添った対応をお願いします。症状が軽いうちに相談できる空間があると良いですね。 ・カウンセリング件数が増加しているのは、“相談しやすい環境”ができているということだと思います。 ・担任の先生は話は聞いてくれましたが、具体的な改善にはつながらなかったです。
⑦第一志望校を目指させる指導	【進学】 実績の向上　＆ 学力の向上	(1) 具体的方策 ア チューター制指導の充実 小論文と面接(志望理由書)で担当を分ける。小論文は国語科以外の先生も得意分野を担当する。 イ 看護医療系対策 ・看護模試の受験 ・１日ナース体験への参加 ウ 学習スペースの設置 職員室前東ロビーに机と椅子を設置し、個別指導を受けられる環境にする。 (2) 具体的指標 ア 国公立大学に5名以上、中堅以上の私大に10名以上合格させる。(中堅私大とは河合塾全国偏差値47.5以上の大学とする。) イ 模試で全国偏差値50以上の生徒をクラスで特進は50%以上、総進は10%以上。 ウ 全学年、スタディサプリ到達度テスト正解率60%以上 達成項目３つ　… A 達成項目２つ　… B 達成項目１つ以下　… C	C	・具体的方策と具体的指標がリンクしていないため、次年度はリンクするように考える。 ・第一志望校への合格率は88%であった。受験指導ではチューター制が良く機能し、看護系希望者にはナース体験と看護模試を実施し、良い結果が出せた。全体としては国公立大学4名、中堅私大に15名合格できた。 ・スクラップノートについては、細かな指導ができなかった。教員側から題材を示していく必要があると感じた。 ・模試やスタディサプリについては目標値を達成できていない。現状の生徒に合わせた目標設定をするとともに特進・総進クラスには実力をつけさせる教科指導が必要である。 ・進学希望者83名の内、第一志望校への合格者は73名で合格率は88%だった。 【進学先の内訳・R8.2/19現在】 四年制大学50名・短期大学2名 専門学校26名・海外留学3名・未定2名	C	・授業料無償化の時代に受験者を増やすためには、特進の存在がカギになると思います、勉強をしたい子が入学したくなるような学校になれば志願者が増えると思います。 ・子供は特進クラスから国公立大学を推薦で受験をしたが、面接と小論文をもっと計画的に取り組んだ方が良いと感じました、具体的にスケジュールを立てる必要があると思います。 ・学年末テストの数学の点数がクラス全体で低く、指導内容が適切だったのか、問題の難易度が正しかったのか、疑問です。 ・急な進路変更などへの対応も難しいと思いますが、お忙しい中時間を作っていただいていると思います。
	【就職】 「自分で選んで就職先を決めた」と実感できる指導	(1) 具体的方策 ア 3月末の合同企業説明会(県武道館)、5月の企業説明会(本校)、6月のオンライン企業説明会(生徒個人)、昨年度の求人票の提供などで生徒が企業情報を入手できるようにする。 イ 求人票受付初日から求人票をWebで閲覧できるようにする。 ウ 職種別の求人票一覧表を生徒に配布して、自分が就きたい職種の求人票が見られるようにする。 (2) 具体的指標 ア 就職内定者に対して就職に関する情報収集量や就職活動に関する10項目のアンケートを行う。 イ アンケートは就職希望者が全員内定したら実施する。12月までに全員内定しなければ、1月に内定者だけでアンケートを実施する。 実感できた生徒が ９０％以上　… A ８０％～８９％　… B ８０％未満　… C	B	1　生徒への情報提供の実施 ・３月　合同企業説明会（１６６社） ・５月　校内企業説明会（１９社） ・12月　校内企業説明会（１３社） ・３月　校内企業説明会（１１社） 2　求人票のＷｅｂアップ ・７月１日からアップすることがてきた。 ・１７２社、１８５枚を公開した。 3　求人票一覧表の作成 ・７月７日に一覧表を配布した。 ・企業名、職種、基本給を掲載した。 4　アンケートの実施 ・１月に内定していた生徒に実施した。 ・実感できた生徒１００％であった。 ・100%であったが、「内定をもらった就職先は、自分で受験を決めましたか。」の質問で、２人が自分では決めていないと回答した。この質問が最も重要であり、この質問の回答が100%でなけれ ば「A」と評価できないのではないかと判断した。	B	・求人票を見ても理解できないところがあり、親に頼ってしまうのかもしれません。親もいろいろ情報を見るとつい介入してしまいそうで……。高校生ですし、自分の人生、時間をかけて自分で決めて欲しいですね。 ・Webで求人票を見られたのは良かったです。希望を出すギリギリまで悩んで調べたり、親子で話したりする時間がたくさんあった。 ・面接練習など先生方が熱心に指導していただけてよかった。当日は練習通りの質問が少なかったようで、試験後に生徒から聞き、次年度につなげていって欲しいと思います。 ・本人の希望と企業側の必要とする人材は、一致するとは限りません。厳しい言い方ですが、自分で決めなかったのはもしかすると本人の努力がもう少しあれば……ということだったのでしょうか。いずれにせよ就職を決めたのですから目の前のことに努力あるのみです。内定後のフォローも大切になってくると思います。 ・就職希望者は少ないですが、求人の件数は多いので、１年生の頃から就職が視野に入っている生徒は早目に動きだせると良いと思います。